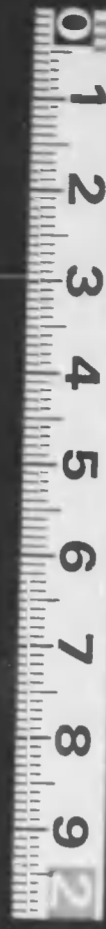


週報  
寫眞

情 報 局 編 輯  
一 月 廿 七 日 第 二 百 五 十 六 號



『中國宣戦を布告す』  
 固く誓ふ同生共死の  
 戦場は一つ  
 敵は一つ  
 米英重慶の陣營に  
 アジア一丸の嵐を吹きおくらう

「時の立札」は他へ轉載その他に御利用下さい

# 決然!! 中國参戦す



大東亞戰爭勃發以來同甘共苦の態度を以て、わが米英華義勇に多大の協力をついできた盟邦中華民國國民政府は、更に一步を進めて同生共死の決意を固め、大東亞戰爭二年目の新春一月九日、ついに決然起つて米英に宣戦を布告した。この中國の對米英宣戦布告こそは、大東亞の決戦體制を一段と整備強化し、重慶政權の對日抗戰の意氣を失はしめると共に、共同の宿敵米英に多大の動搖を與へたのであつた。

この宣戦布告と同時に日華兩國は共同宣戦を發して、米英に對する共同の戰爭を完結するために、不動の決意と信念とを以て軍上、政治上、經濟上、完全なる協力を爲すことを中外に宣言したが、同時に中國に對する不平等條件を撤廢しようといふ既定方針の實現を決定して、租界還付と治外法權撤廢についての日華新協定が調印された。この事實は、百年の水きにわたつて歐米人によつて自國の領土内に印せられてきた汚點がいまこそ、きれいなついでに拭き去られたともいふべきであつて、中國民衆の喜びはさこそと察せられる。

かくて軍備に經濟に、漸々獨立國家として發展充實してきた中國が、最大限の經濟的協力を行ふと同時に國軍の精銳を引出して、わが國と共に宿敵米英華義勇の決戦に臨むことになつたのである。われは中國のこの決意に敬意を表し、新東亞の建設に必ずや大きな貢獻をすべからうことを信じて、相共に聖戰完遂に邁進しよう。

上この日、歴史的な日華協定調印式は國民政府大禮堂で行はれた。賓客は署名調印する汪主席(左)とわが重光大使(右)。

下右調印する重光大使  
下左日華協定書の調印は成つた



午前十時、林柏生宣傳部長は國府の参戦を堂々中外に宣言した。語氣まさに凛然。

# 中國参戦

美英倒打戦参護

## の日南京



宣傳部の宣傳車が市内を疾駆して、参戦の感涙を民衆に撒きちらしてゐる。

國府米英に戦ひを宣す！ 百年來積り積つてきた憤怒がいま爆發したのだ。この日の南京はさん／＼と降り注ぐ多晴れの陽光に一段の光彩を添へて、街行く華人の足どりも一きは過しくみえる。米英斷乎棄つべし！ 首都南京の民衆が、これほどの感涙と緊張に包まれたことがあつたらうか。國父孫文靜かに眠る中山陵もくつきりと浮び、冬空高く「擁護参戦打倒英美（英米のこと）のアドバルーンが、中國あげての力強い決意を象徵してゐた……その日の南京

撮影 支那放送軍報撮影



聲高らかに叫ぶ「萬歳！」意氣正に米英を存亡軍官學校生徒

新中國の宣戰布告とともに支那民衆の間に濺洒として起つた「米英断つべし」の聲は旋風のやうに南京、上海、北京、廣東と全支を席巻した。南京中央ロータリーを曲る民衆行進





共同の敵「米英」を撃つのは日本から譲り受けたこの重機だ

目標！前方の敵火撃！撃て！班長の命令に銃手と二番銃手の本気はびつたり合ふ



生徒の敢闘精神は鋭利剣を過ぎて日に日にたかまる

砲の分解、組立、運搬の訓練を汗する砲兵隊



指揮官軍の隊信第一、隊軍の威風凛々が開始された

中央軍官學校  
陸軍中央軍官學校  
新近報文信武部宣 影撮

# 参戦中國の精強

新中國の國軍を助ふ中央軍官學校  
毎日々々訓練は續く



中央陸軍軍官學校はわが陸軍士官學校に譲營するもので、將來の國軍を助ふ優秀幹部の養成を目的として昨年九月南京に設立された現在第一期生千名が、わが派遺將校指導の下に精兵主義による訓練を受けてゐるが、いま精強四十万の國軍が、付敵米英軍滅亡と誓をならべて進むとき、彼ら若き軍官學校生徒たちは、青天白日旗のもと、滿地紅をしてさらに光輝あらしめようと、その訓練は猛烈を極めてゐる



# 隊部軍海國帝 る護を洋北の寒極



海へともく、陸上はすぐ氷雪に覆はれてしまふ  
海軍の勇士は哨戒の傍ら陸上の輸米と奮闘する

たゆまぬ監視を續けて敵艦の北洋を制壓するわが艦隊  
撮影 武田海軍報道班員



われは勝ち抜くために『大寒』のさ中とはいへ、寒さなど吹き飛ばして、  
域奉公に邁進しなければなりません。それにつけても、若下何十度と下る酷  
寒と闘ひ、北の護りに就いてゐる皇軍將兵のご苦勞を思ふとき、まだ一頭張  
らねばならない感を深くします。

アリネーションにおいてはごく最近まで、酷寒と闘つて作戦するわが艦隊や、  
陸上基地に盛んに米機が爆撃にきて百爆を加へてゐます。この蛇のやうな敵機  
の目標は、鳴神島や熱田島に近寄るわが艦隊と、勇士たちが一日も早く仕上げ  
るために刻苦精勵してゐる整備作業を妨害してゐるわけですが、敵艦と闘ひ、  
その上、蛇のやうな敵機を撃ち拂ふことは尋常一様なことではありません。だ  
が、わが海軍の勇士はこのいづれの苦勞をも克服して、斷乎、北の護りを固めて  
ゐます。

水に閉される北洋であるが、艦上の火器には一片の水も着かせず  
『敵機を来れ』と配置につく隊員

# 白魔の峠に軍楽隊を響かせる

陸軍戸山学校 徒雪中の強行軍



↑ 本出陣への買掛宮殿下に行軍経過を御報告申し上げた。勇士の胸に浮ぶのはアリュイシヤンが北極を破れ、現れたにほやかなの演習はつよく

粉雪舞ひ、寒風凍之雪の金精餅を乗り越えて行程六十八キロ、堂々二百五十名の大部隊をもつての雪の進軍は、陸軍戸山学校生徒によつて見事遂行された

一月十四日、日光中禅寺湖畔に宿營した部隊は、十五日午前四時にははやくも行動を開始、スキー小隊を先頭に、軍楽隊も加はつて戰場ヶ原、湯元を過ぎ、九時半には標高二千メートルの金精峠の裾に取りつき、雪庇を削つて路をつけてゆくスキー小隊について全軍力闘、三十五キロの雪中を突破、午後八時には東小川の村民の温かな出迎へをうけてこの日の行軍を終了した。十六日、午前二時半、再び沼田に向つて行軍を開始した部隊は途中、畏くも遠路雪中を冒して行軍部隊をお出迎へ遊ばされた賀陽宮殿下の御堂を雪原に拜し、悪戦苦闘の金精越えを「御苦勞」とねぎらはせられるお言葉に、雪灼けの顔とうるませ、かくて幾多貴重な経験と訓練に終結した壯舉は大成功裡に終了した



↑ スキー小隊が先頭を切つて道をつけた後についで急峻をジグザクでのぼり始める

⇒ 沼田への最後の行程だ。宮殿下のお出迎へをうけて元氣百倍、軍楽隊についで堂々の行進だ



# 闘魂燃ゆ 吹雪の競技場

海ノ藝野長 會大技競上氷徒學國全

競技場全景 藝ノ海



今年度冬季競技の筆頭を飾る文部省、大日本學徒體育振興會主催の全國學徒氷上競技大會は一月九日から三日間、長野縣藝ノ海で舉行、日頃の練習にも見せんと勵せ参じた大學十二校、高専九校、中等七校、四百八十名の選手の間には猛烈な敢闘熱戦がくりひろげられた

撮影 諏訪市 池内眞雄

容積なく降りしきる雪の中で立教、明治、兩大學の勢はよく、左中、左下、母校の勝敗いかんと懸かる學生も、このやうに雪だらけだ、左中、五千メートルの決勝點も間近、最後のがんばり、一團となつて滑りこむ、左下



# 軍用保護馬の木炭搬出奉仕隊

岐阜縣・高山



今まで軍用地方では、深山雪が降ると馬は馬小屋へ入れてしまひ、春、雪の消える頃とならないと小屋からは出さなかつたので、馬は運動不足と太陽に當らぬために、時としては骨軟症等の病氣になつたものである。

國家の大切な資源である馬が、この種のやうな病氣となり、お國のお役に立たなくてはと、こゝ飛騨高山を中心とした清見村、朝日村地方では、この軍用保護馬の鍛錬と、雪のため出荷が遅れてゐる木炭の搬出を、四尺、五尺の雪を置し、この馬で行つてゐる。『雪荷木炭搬出奉仕隊』がこれである。

朝は薄暗い五時に起き出で馬の飼付けを終ると、手早やに自分も朝食を済まし、一里も二里も離れてゐる窯元までかけつけると、指導員の號令に従つて國民隊の後、引續き木炭の積込作業だ。一つの積に四十俵もの木炭をつみ、十頭を以て一班とした部隊が編成され、二町、三町と續く馬糧部隊の行進が始まる。



出役を前に調練は行はれたその日大物を挽き運ぶための用意でもある

愛馬よ頼む  
積まぐりに降りつける雪のなかへ、手綱をとつて出陣せんとする協働員

寒風を衝いて雪の降路を照らすのは、雪荷木炭搬出奉仕隊の隊員



# 二の常 月の会

玄米食で頑張りませう

玄米食の実施については、何んといつても三度々の主食物のことですから、十分研究しなければ

ならず、まだ解決されない問題も多少残されてゐるやうです。しかし、外米の輸入には莫大な船が要るのであつて、この船はすべて大切な軍需の方面に廻さなければならぬのです。玄米食の実施によつて、食糧の消費を削減し、同時に外米の依存から脱けることができるとすれば、これを採用するに越したことはないわけですね。しかも玄米食の普及は、既に國策として決定をみてゐます。もはや議論や批評のときではありません。

の實施について相談いたしました。玄米の炊き方と食べ方については、詳細のつてゐる姉妹誌『緑の週報』の一月六日號をご参照願ふこととして、こゝには要領のみ書き抜くに止めておきます。

(一) 炊き方 炊飯器具は普通の鍋釜で差支へなく、水洗ひは一度洗ひの程度、水加減はおよそ玄米一升に對し水二升程度とし、もし少量の玄米を炊く場合は、水の分量割合を幾分多目にし、多量に炊く場合は幾分少な目にします。燃料は薪、木炭、石炭、カス何んでもよく、氣長になるべくとろ火で炊くことが肝腎です。

間に合せて 通しませう

生活の切下げといふことが、すでに何遍もくりかへされた戦争經濟のいろはであるにも拘はらず、まだ十分徹底されてゐないやうです。

しかし、物の不足が一層深刻になつてゆくなかにあつて、相も變らぬ平時の生活を續けてゆかうとしたのでは、到底窮乏な戦争生活に堪へてゆくことはできません。私たちは、この際、直ちに生活のすべてを決戦態勢に切換へて『間に合せ』を勵行し、あらゆる不自由、困難にうちかつとも、そのなかから旺盛な戦力を生み出してゆかなければならぬわけですね。

そこでこんどの常會では、この『間に合せ』生活の徹底について、皆さんの總智を集めて載きたいのですが、特に左の點についての實





海のつはもの  
の観兵式

遠く南太平洋に開闢なき決  
戦が繰返される時、なほ新々  
たる敵粉を示す帝國海軍部隊  
の横須賀鎮守府艦隊は一月  
十五日、敵艦を捕いて撃行さ  
れた。一隊また一隊と敵艦は  
大地を蹴つて、海のはつはもの  
の波は高く太平洋を撃して  
電々の威容を展開した

一日 第九回回九切手賣  
出 衣料切符制實施さ  
れて一年

一日 節分

一月二十一日から  
けふまで 國民運動  
對軍心身鍛錬期間  
八日 大船乗取日

十一日 紀元節

三月末まで 二百三  
十億先産貯金強固  
運動

十五日 連勝ガール隔幕  
して一年

十七日 新年祭

二月

|    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|    | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  |
| 7  | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 |    |    |    |    |    |    |

### 大東亞戦争日誌

十二月

二十三日 ●夜間、大島島嶼在部  
隊はミッドウェー島方面より東襲  
せる敵機十数機と交戦、その四  
機を撃墜し、六機に損害を與へ  
四機、小火災四箇所、その他損害  
なし

●帝國海軍戦闘隊はガダルカ  
ナル島方面より飛來せる敵機十数機  
をニューギニア島ムンダ上空  
に撃墜、その十四機のうち不詳  
六機を撃墜、敵果の内容、ゲラマ  
ン戦闘機六機(うち不詳四機)、  
カーチス艦上攻撃機七機(うち不  
詳四機)、トビ機一機、本航空隊に  
おけるわが方の損害、自機または  
未詳機二機

二十六日 ●ビルマ方面帝國陸軍  
航空部隊は東部インドにおける敵  
航空基地の攻撃を續行中にして、十  
二月二十一日以降現在までに判明  
せる主要なる戦果

一、わが攻撃による戦果 (一)チ  
タゴン埠頭を攻撃し各敵箇所  
に火災を生ぜしめ輸送船一隻を炎  
上、敵機一機を撃墜 (二)十二  
月二十三日フエンニ飛行場を攻撃  
し、敵機三機(うち不詳一機)を撃  
墜、九機を炎上または大破せしむ  
(三)十二月二十四日カルカッタ  
附近の油槽群及び兵器工場を攻撃  
し火災を生ぜしむ

二、わが基地に來襲の敵機に與へ  
たる損害 (一)十二月二十一日ア  
キヤブにおいて地上火器により敵  
機二機を撃墜 (二)十二月二十三  
日マダラにおいて地上火器により  
敵機二機(うち不詳一機)を撃墜  
(三)十二月二十四日マダラにお  
いて空中戦及び地上火器により來  
襲せる敵全機六機を撃墜

三、本期中同方面におけるわが  
方の損害 炎上せるもの倉庫二棟  
及び飛行機一機、未詳機二機  
もの一機

三十一日 ●ニューギニア島方面  
帝國海軍航空部隊は三十日、三十  
一日兩日にわたり同島南部メラウ  
ケを攻撃し、建設中の敵航空基地  
を破壊しその使用を不能ならしむ

一月

一日 ●島嶼方面帝國海軍  
航空部隊は舊曆三十日より一月一  
日にわたり來襲せる敵機と交戦し  
敵戦闘機五機を撃墜、なほ所在部  
隊は地上砲火により敵機二十五機を  
撃墜

二日 ●ニューブリテン島  
ソロモン群島方面在部隊は舊曆  
三十一日以來一月二日までムン  
ダ、ラバウル、スルミ方面に執拗  
に來襲せる敵機延數十機を撃墜

十一日 ●一月五日以降同十一  
日までにおける帝國海軍航空部隊  
の戦果 (一)ソロモン群島方面航  
空隊 撃墜せる敵機二十一機、  
わが方の自機及び未詳機三機  
(二)ニューギニア方面航空隊 撃  
墜せる敵機二十一機、わが方の  
自機及び未詳機六機

十二日 ●帝國陸軍航空部隊は  
南太平洋方面において優勢なる敵  
と交戦しつゝ我が地上作戦及び海  
上輸送に協力中にして、昨年十二  
月末より現在までの戦果 (一)敵  
飛行機に與へたる損害 撃墜三十  
四機、地上攻撃三機、(二)わが方  
の損害、自機及び未詳機二機

十四日 ●中支那方面帝國陸軍  
部隊は昨年十二月下旬より敵第五  
戰區李宗仁麾下の約五方を大別山  
系に包圍し、これに大なる打撃を  
與へその主要據點を覆滅、判明せ  
る戦果 (一)敵に與へたる損害、  
遺棄死體約六千五百、俘虜一千五  
百、主なる輜糧品、火砲九、重機  
關銃四十五、小銃二千四百 (二)  
わが方損害、戦死三十

行を申言せたいませう

(一)衣生活については、この大戦力  
の消耗となる新調で、新調購入はで  
きるだけやめて、あるものを活かして  
使ひ、決戦下に相應しい服装を作  
り上げませう。この點については、本  
誌一月十三日號でも紹介しました衣  
服の更生や、隣組の衣料交換會など  
も、たしかに一つの好方法です

(二)食料もまた定められた以上に  
消費することは、それだけ国力を弱  
めることとなります。是非でも配  
給や割當内で間に合せるやうに、  
やりくりについて工夫いたしませう

(三)電気やガスもできる限り節約し  
て、軍需や飛行機をこし／＼飛れる  
やうに、これを軍需生産に回さなく  
てはなりません。それは各家庭で  
一寸した注意でできることです

### 玄米食の町

三百戸二千名が常食者

文と撮影 名古屋 山田眞治

必勝生活を目ざして決定された玄  
米食實踐運動にさきかけて、名古屋市  
大道町内會では十數年以前の實踐  
者であり、現に町内會長である島本覺  
也氏が指導獎勵に當り、現在三百戸二  
千名の常食者を導き、文字通り玄米食  
の町として隣者、隣組らやを誘つてゐ  
るが、決戦二年も玄米食で勝ち抜く  
ぞと、いま町内一丸で頑張りをい  
ふ

島本さんの話によると、玄  
米は白米より栄養価が多いから、副食  
物も塩味のもを減へば一日一人十錢  
くらゐで足り、至極節約的である。消  
化が良くないといふことで、老人子供  
には適しないといふ人もあるやうだ  
が、これは咀嚼が足りないからのこ



同氏の講話では、玄米食になつてから却つて病人は一人も出なかつた

### 自給肥料の増産に つとめませう

さうして、經濟持久戦の下部単位で  
ある農産物を、一層強化したしま  
せう

全肥の不足は食糧の増産にだん  
だん困難を加へてきました。しか  
し、この決戦下にあつて金肥がな  
いからといって、一口でも食糧の  
増産を妨げることができないものでは  
ありません。この戦争を勝ち抜く  
ために、何が何でも自給肥料の  
増産に一段の努力が沸かなくては  
ならないわけですね

古老が訓へてゐるやうに、「多忙  
な農閑期は二倍の増収を約束す

る」ものです。雪に閉された大地  
の底にも、小さな植物のやがてこ  
ん春への逞しいとながみが續け  
られてゐることを忘れませう

今日こそ一切の休閑努力をあげ  
て、自給肥料の増産に精進をうち  
こむときでなければなりません

丁度この二月には、目下全国に  
わたつて展開されてゐる堆肥生産  
倍加運動の「管動旬間」が實施され  
ることになつてゐますが、これを  
機會に自給肥料増産の技術につ  
いてさらに一段と工夫をこらし、  
きたるべき夏作物に備へるため  
に、こんどの常會では堆肥の積込、  
緑肥の増産、その他について十分  
研究し、これを實行に移しませう

兄として表彰された例もある。こ  
の町内の人たちは玄米食實施當初は、  
いろいろ心配してゐたやうだが、いま  
ではこんなにおいしく、また經濟的で健  
康になれる玄米食を、何故もつと早く  
國民食として採りあげなかつたのだら  
うと感嘆してゐる。そこでこの島本  
さんの講話をこんどは名古屋帝國大  
學に持ち込んで、科學的の立場から堀  
田一雄博士におたづねしてみると、博  
士は大きく頷いて次ぎのやうに語られ  
た

『玄米はビタミンが非常に多くB1、  
B2、D、Aを含んでゐる。脂肪は七分  
鶏の〇・五に比べて四倍の二・二を有  
し、カロリーも七分鶏百グラム三百五  
十カロリーに比べ三百五十六カロリー  
で、營養的にも申し分ない。消化吸収の  
問題がよくいはれるが、玄米食に馴れ  
ること、炊き方に注意すること、  
その心配も解消される筈だ』



# 寒夜の海を渡る火のヨージン

東京 本芝子供会夜警団



学校の出来事、兵隊さんの話、互夜警団員の愉しくも賑やかな話所のひととき



火の用心! カチカチと拍子木を打つて

「小父さん、松葉を消すに捨てちやダメだわあ無こりや一本もつたよ、消まん〜」



「火の元に御注意願ひます」  
提灯をかざす子、拍子木をうつ子、白鉢巻も美しい男女児童十数名の一隊が、寒風に頬を林檎のやうにほてらして、カチカチ火の用心と、静まりかへつた街路の一角を護つてゐます。この健気な子供部隊は東京市芝区本芝町国民学校児童で組織する本芝子供会の夜警団。これまで本芝一帯に相次いだ火事騒ぎに、子供心にも戦慄下にこれではならぬと、イ子達で合議の末、四年生以上の男女約百名の児童で夜警団を結成しました。全員を男女各七班に分けて、夜八時には町内の相違員高田さんのお宅の前で一班づゝ集合、九時までに受持地域を火の用心の一剣り。寒夜に浴える拍子木の音、火の用心の呼聲が路地から路地へ流れて行くと、各家庭ではお母さん、姉さん方が「子供達にまで心配かけては濟まない」とボンブ百より用心一つの心構へが徹底してゐます。大事にせぬ火が大事を生む。私達もほんの僅かな心の強みから決断下の大切な物資をアキラ灰にしてみまふやうなことがあつてはなりません。

「火の元に御注意願ひます」可愛い夜警団員の聲が寒夜のしむまにゆえたります

あゝ夜警団が通るよ、どれ今一火の元を確かめませう、炬燵の火も火消さへ

「小母さん、お宅の煙突の火の子が曇いですよ無ほんよにねえ、氣をつけませう」



大東亞戰爭漫日誌  
川石 介進



中國米英軍官



英軍太平洋人殺果



印度境內之軍隊



米ホーキー失物とトフ表



英米海軍之重砲



英國海軍之油桶



「今日、寒いですね」  
「今日は、暑いですね」  
「アハハハ、備前は暑くはしませんが、



「けふはちよいと底冷えがするのう」  
「なんのお前さん、坊やの軍艦浮べて降りやソロモン海で働いてる氣がして寒いところかね」



「今日、寒いですね」  
「今日は、暑いですね」  
「アハハハ、備前は暑くはしませんが、



「けふはちよいと底冷えがするのう」  
「なんのお前さん、坊やの軍艦浮べて降りやソロモン海で働いてる氣がして寒いところかね」



「今日、寒いですね」  
「今日は、暑いですね」  
「アハハハ、備前は暑くはしませんが、



「けふはちよいと底冷えがするのう」  
「なんのお前さん、坊やの軍艦浮べて降りやソロモン海で働いてる氣がして寒いところかね」



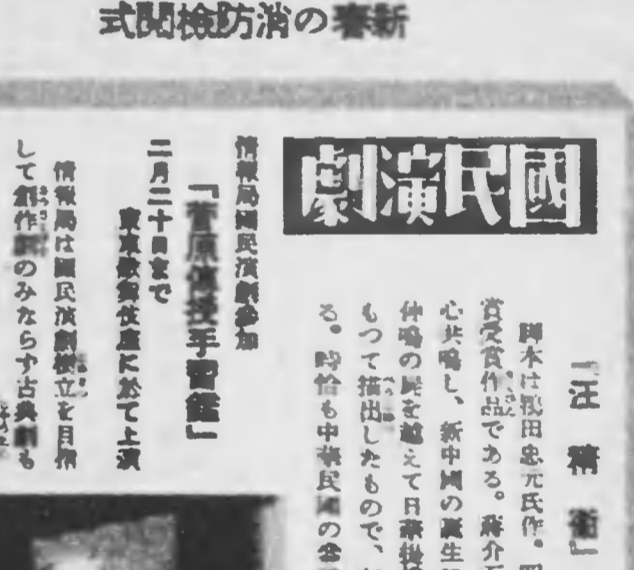
「今日、寒いですね」  
「今日は、暑いですね」  
「アハハハ、備前は暑くはしませんが、



「けふはちよいと底冷えがするのう」  
「なんのお前さん、坊やの軍艦浮べて降りやソロモン海で働いてる氣がして寒いところかね」



「今日、寒いですね」  
「今日は、暑いですね」  
「アハハハ、備前は暑くはしませんが、



「けふはちよいと底冷えがするのう」  
「なんのお前さん、坊やの軍艦浮べて降りやソロモン海で働いてる氣がして寒いところかね」



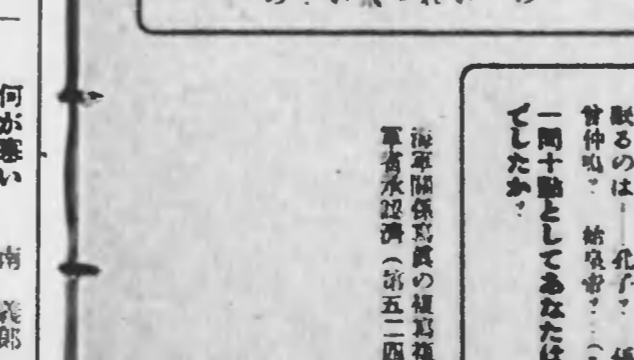
日本に背負つる日本の汗



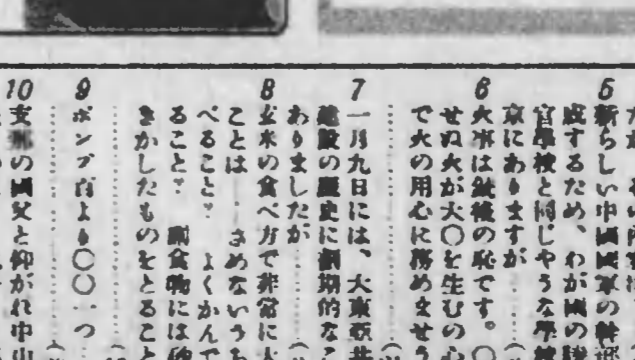
日本に背負つる日本の汗



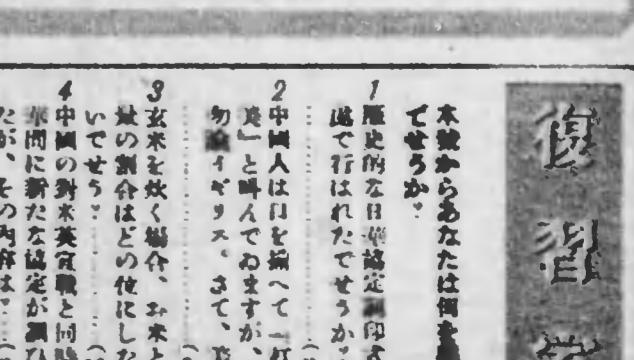
日本に背負つる日本の汗



日本に背負つる日本の汗



日本に背負つる日本の汗



日本に背負つる日本の汗

照津器  
なんの  
これしき  
この寒さ

塚房不要  
小泉 柴郎

火鉢 柳葉 杉 狂夫  
火鉢を水鉢にして断乎冷水噴霧

働けば暑し  
秋 玲二

兒童の赤心燃ゆ  
森熊 猛

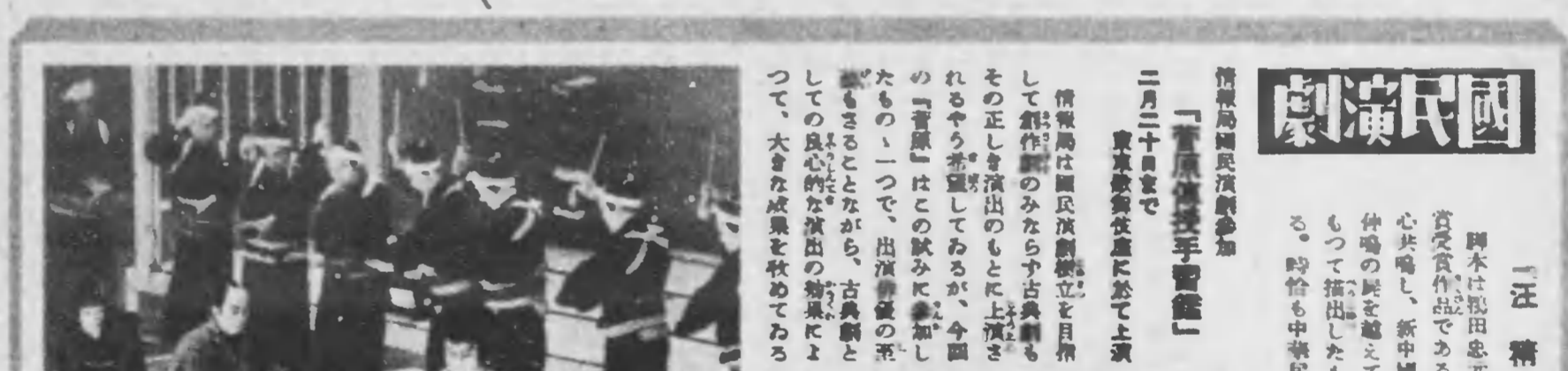
海女に冬なし  
榎木 映一

何が悪い  
南 義郎

復習



帝都を護る鐵壁の防火陣  
新式消防檢閱式

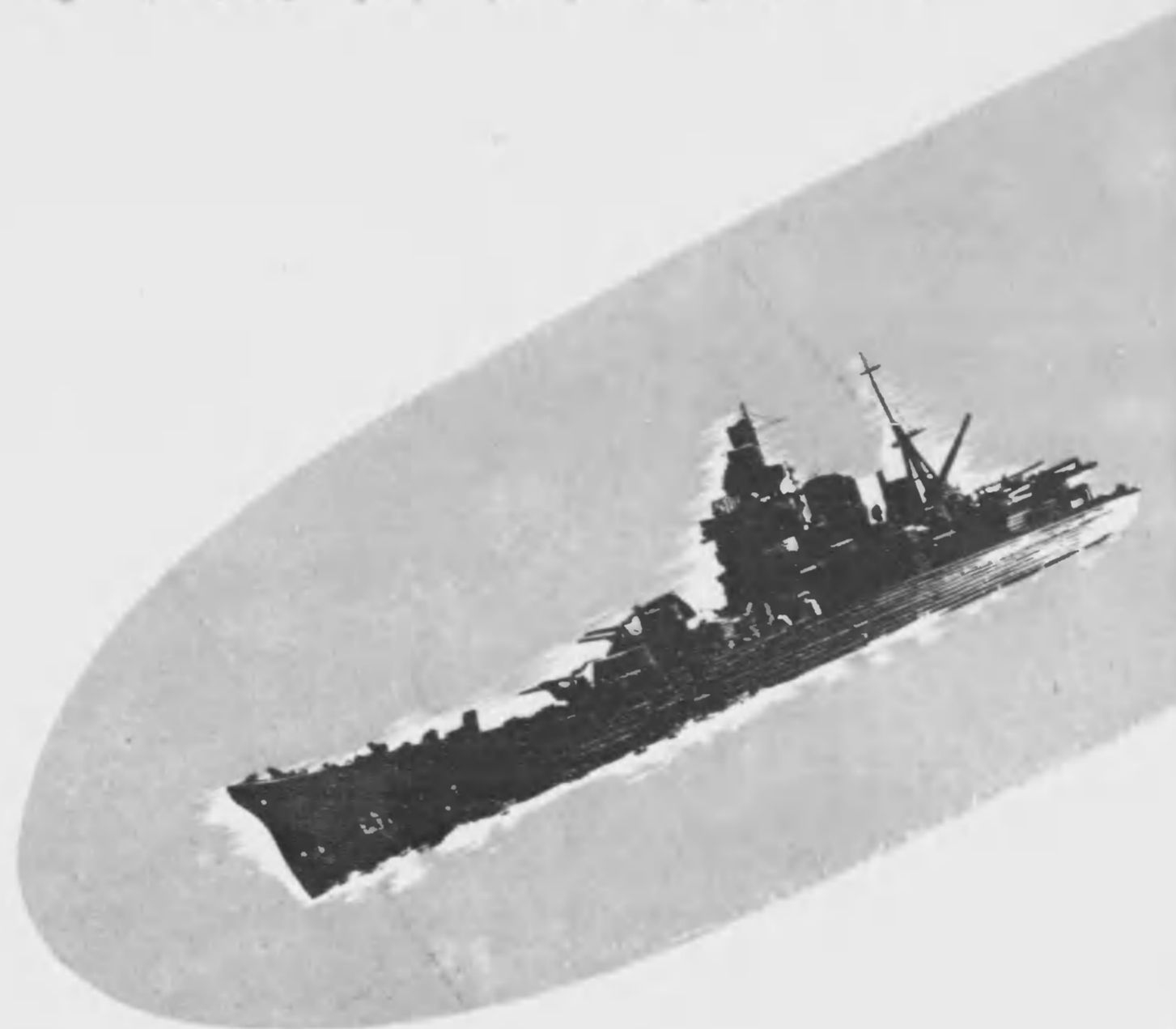


「汪精衛」二月十日まで帝國劇場に於て上演



本城からあなたは何を頼んでおるか？  
1 歴史的な日本海軍定額式は何で打たれたか？  
2 中国人は口を編んで「打倒英米」と叫んでいますが、英米は勿論イギリス、さて、英米は？  
3 玄米を炊く場合、お米と水の量の割合はどの位にしたらよいですか？  
4 中国の對米英宣戦と同時に日本間に新定協定が調ひましたが、その内容は？  
5 新らしい中国國家の幹部を英京にありますが、わが國の陸軍士官學校と同じやうな學校が南京にありますか？  
6 大事は鐵壁の底です。市にせぬ火が火を止む心掛けで火の用心に努めませう。  
7 一月九日には、大東亞共榮團建設の歴史に劃期的なことがありましたが、それは？  
8 玄米の食べ方で非常に大切なことは、さぬいうちに食べること。副食には砂糖をきかしたものとすること。  
9 ポンツ百よも〇一つ  
10 支那の國史と仰がれ中山陵に眠るのは、孔子、孫文、曾仲昭、蔣皇帝、(15頁)一問十點としてあなたは何點でしたか？

吾等も貯蓄で決戦だ!



理想の国民貯蓄

# 富國徴兵

寫眞週報  
(禁轉載)

昭和十八年一月  
廿七日 印刷發行

編輯者  
情報局

東京市豊町區  
永田町一ノ一

印刷者  
内閣印刷局

東京市豊町區大石町

一部十錢  
(送料一錢)

▲外函郵送には依  
る地域は送料  
共一部十九錢

▲規約配達御希望  
の方は一部十錢  
(送料一錢)の割  
合を以て前金を  
添へ御申込み下  
さい

▲特大號の場合は  
其の都度御持込  
金より差額を申  
受けます

所 達 申 價 定

▲全国各地官報  
販賣所

書店・購買店  
新聞販賣店

寫眞材料店

前號取間に本誌を  
お読みになつたら本  
誌を前號取間に送り  
ませう。送料は内地  
と同様で封封あるひ  
は開封にして第三種  
と明記すれば、一部  
一錢で十

内閣印刷局印刷發行

寫眞週報 昭和十八年一月二十七日 第三種郵便物認可 昭和十八年一月廿七日發行 毎週一回水曜日發行 第百五十二號